



【第2回学校運営協議会】

平成30年10月30日（火）に第2回学校運営協議会を開催しました。全体協議に先立ち、校舎や生徒の様子を見ていただきました。全体協議では、これまでに行われた各ワーキンググループでの協議内容について報告があり、それぞれの現状や課題について活発な意見交換がなされました。今後は各ワーキンググループで再度協議を行い、次年度学校が取り組む内容を検討すること。第3回学校運営協議会において、次年度の取り組み内容を確認することなどを申し合わせました。

1 日時・場所

平成30年10月30日(火) 午後1時30分から午後3時50分まで
矢島高等学校 大会議室

2 出席者

(1) 運営委員

大井 建史 【天寿酒造株式会社代表取締役社長】
庄司 嘉政 【元矢島高等学校PTA会長】
佐藤 和広 【矢島小・中学校運営協議会委員、元秋田県公立小・中学校長】
松田 訓 【本海獅子舞番楽伝承者協議会会長、矢島高等学校同窓会前会長】
佐藤 晃一 【由利本荘市教委CS協働コーディネーター、元矢島総合支所長】
真坂 伸子 【矢島保育園園長】
菅原 賢一 【H29学校評議員、矢島小支援地域本部コーディネーター】
佐藤真理子 【H29学校評議員、人権擁護委員】
小松 和史 【H29学校評議員、矢島中学校PTA会員】
茂木 好文 【H29学校評議員、矢島高等学校同窓会長】
熊澤 耕生 【矢島高等学校長】

※ 小松茂樹委員、松田孝志委員は欠席

(2) 教育庁

勝又 貞臣 【高校教育課 指導班 指導主事】
佐藤 一喜 【秋田県教育委員会 CSアドバイザー】

(3) オブザーバー

伊藤 成年 【秋田大学高大接続センター教授、元矢島高校校長】
三浦 宏 【矢島中学校校長】
佐々木克也 【由利中学校校長、元矢島中学校教頭】
佐々木純悦 【大曲工業高等学校教頭】

(4) 矢島高等学校 [事務局]

佐々木 誠 【教頭】
高田宇一郎 【事務長】
石澤 宏基 【教諭】
菅原 一哉 【教諭】
土田 伸也 【教諭】
渡邊 舞子 【実習助手】

3 次第

- (1) 授業参観（午後1時30分～午後2時）
- (2) 開会（事務局 教頭）
- (3) 秋田県教育委員会あいさつ（勝又指導主事）
- (4) 学校運営協議会会長あいさつ（大井会長）
- (5) 校長あいさつ
- (6) 出席者紹介
- (7) 協議（進行 大井会長）

WG 1 協議について報告：石澤教諭

WG 2 協議について報告：菅原教諭、土田教諭

WG 3 協議について報告：渡邊実習助手

WG 1 について

【運営委員】

矢島カップの運営には、全体で250人ほど必要。支所職員80名、110名の市民ボランティアの他に矢島中高校生のボランティアで成り立っている。

仁賀保地域で行われた中学生と地元企業のふれあいPR事業において、出展した大和工業の担当者が「ボランティア体験活動や地域の行事、職場体験など地域の活動に参加し、多くの人と接してコミュニケーション能力を高めてください。企業はそうした人材を求めている」と中学生に話された。さきほど石澤先生が報告したコミュニケーション能力向上に、この大会運営の関わり方が役立っているということに通じると感じた。

【運営委員】

スタート地点の女子の活動状況を視察しカメラで記録した。最初は恥ずかしいという面がみられたが、段々と溶け込んで参加選手と会話をしていたようだった。なくてはならない運営のメンバーの一員であると感じた。

【オブザーバー】

昨年から勤めているが、矢島カップの他にも地域に出向いての高校生との活動が多々あるのに驚いた。中学生にとってもコミュニケーション能力、地域人との交流ということで自己有用感、自己肯定感に大きくつながるものである。秋田県の児童生徒数の減少は、多方面に影響が大きい。由利本荘市内の中学校校長会としては、地元の中学生は地元でという精神は変わらない。矢島高校へという思いは持ちつつも、ただ決して制限することはできない。バランスを考えながら進めていくことが大切である。

【オブザーバー】

鳥海中は10年以内には一学年20人を切る。矢島高校を選択する生徒に対して、矢島高校の魅力をいかに発展させるか。地域を愛する生徒をつくるために、こうしたボランティア活動は大きいし、地域の方とのコミュニケーション、地域のなかに自分が夢をもって働くことが出来る場があるとすれば集まってくる可能性はまだある。道路事情や交通事情もあり、由利中の生徒がほとんどいない状況であるが、伝統芸能等の特色で魅力を感じさせることが必要だ。

【オブザーバー】

いかに矢島高校の魅力を感じさせる取組が必要かというこれまでのお話であったが、中学生だけでなく保護者や地域にも魅力でなければならない。また、高校生本人が自分の成長をどう感じているかといった評価、地域の人がボランティアで参加している高校生をどうみているかといった評価も必要だ。目に見える学力評価だけでなく、自分から進んで様々な意見を持つ人と協働して学ぼうとする態度といった目に見えない学力を育てているのが矢島高校だということ発信したほうがよい。なまはげの男鹿では、高校生がなくてはならない存在であるようだ。同じように矢島でも地域の人にそうした認識を持ってもらいたい。

WG 2について

【運営委員】

J P X企業体験プログラムだが、来年度も参画してもらいたい。矢島高校の特色づくりにつながる。生徒が企業体験プログラムに取り組むことは、就職試験の面接にも企業側に良い印象を与える。

鳥海高原菜の花ネットワークで生食できるとうもろこしを栽培販売しているが、加工商品を西目のバイオファームという会社を通じて販売を計画している。加工商品の包装のデザインを矢島高校に検討してもらい消費者にアピールしたいと考えている。さらに来年の菜の花まつりの植え付け作業に矢島高校生が関わってもらえれば、バリューアップの取組になる。

【運営委員】

矢島高校に来てはじめて矢島高校のすばらしさを体験できたという卒業生は多い。ボランティア活動や地域学で学んだことは、社会に出て大変生きている。矢島高校はあいさつが良く清々しい。ただ他の地域にこうした矢島高校の良さが知られていない。校長先生の学習要領の説明にもあったが、例えば商品開発など学年1年間だけでなく3年間実施してより密度の濃いものができればと思う。各方面にどうしたら矢島高校のすばらしさを広めることが出来るか。それが学校と地域が盛り上がるきっかけになると思う。

【運営委員】

資料の矢島ブランディングプロジェクトについての中で、酒造りの体験は未成年ということで難しいとあったが、新商品を開発するとなった場合、大井酒造の酒粕を利用した商品は可能ではないか。

【運営委員】

資料にもあるが、就労体験について生徒から希望をとって見てはどうか。我々がCSに関わっているので、由利本荘地域であれば声をかけやすいので、時期的なことも柔軟にできればよい。

地方にいても仕事はグローバルにできる。地元を離れなければ都会的な仕事ができないというイメージを壊してしまう機会を高校時代にやらなければならない。

八朔祭に関しても、人手不足の穴埋めボランティアでなく、すぐに参加できてその体験が楽しいかということが大事ではないかとWGを通じて感じた。

WG 3について

【運営委員】

国交省ダム事務所に連絡したら、鳥海ダムに関わる百宅の伝統、生活様式等の資料をまとめており、高校生に対しても提供できるとのこと。現場への生徒のバス輸送については、昔は可能だった。人数にもよるが、相談してもらいたいとのこと。

【運営委員】

コミュニティ・スクールということで、設置者が県と市の違いはあるが、市のバスを利用できないものか。

【アドバイザー】

市のバス利用についてはルールを作っている。市民であること。学校の利用に関しても公平に使わなければならない。鳥海ダムの学習で使用するという事で交渉してみてもいいのではないか。

【運営委員】

鳥海ダムだけでなく、鳥海総合の授業で利用できるものか。

【アドバイザー】

小中学校の場合は、スクールバスを活用できる。鳥海ダムに一番近い県立高校が矢島高校ということで、この地域だから学ばなければならないということを理由に交渉してみたらどうか。

【運営委員】

県から市にこうした取組をするので移動手段について市バス利用要望できないか。地元の中学生と共に鳥海ダムについて学ぶプログラムがあればよい。

【運営委員】

橋や道路などのダムの構想はかなり進んでいる。百宅の自然等は変わっていない。まもなく工事に入り、現場に行くことができなくなる。法体の滝周辺などの自然を心に留めて学習できるのはあと2、3年だ。

【運営委員】

国交省の鳥海ダム調査事務所から外部講師を招いて授業を行ってみてはどうか。鳥海中でも行っている。

【アドバイザー】

昨年一昨年と鳥海小中学校で出前授業を実施しており、今年も実施予定だ。毎年同じような説明をすることによって、小中学生も理解しているようだ。なぜダムを作るのか、その後どう変わるのかいうことをスライドを使って説明していた。高校でも出前授業は可能だと思う。ただし、バスの件は要検討、要相談。

【運営委員】

矢島ブランディングプロジェクトで、ダムカレー矢島高校バージョンというのもいいかもしれない。ディズニーランドの総工費と鳥海ダムの総工費を比べて学習すれば、興味を引きわたりやすい。

【アドバイザー】

ダムの工事費は、人件費の関係で毎年上がっていく。現在800億円くらい。

(8) 秋田県教育委員会CSアドバイザーより

これまでの地域と共にある学校づくりから、社会に開かれた学校づくりへの流れになっている。子供たちも地域社会と交わりながら生きる力を付けていかなければならない。これまでは学校から地域にお願いすれば支援していただけた。学校運営協議会を設置すると地域から要望や提案がいろいろ出てくる。学校の活動について、地域の方も知らないことも多い。委員の方々も運営協議会の内容を地域に還元、周知することも必要だ。新聞やケーブルテレビなどへ情報を流し取材してもらおうとよい。子供たちが体験活動するということは、地域の方とふれあうのでコミュニケーション能力が向上し変わっていく。活動を整理しながら、ひとつひとつ積み重ねていくことが大切だ。矢島で体験活動を通して学んだことは、ふるさとに恩返しをという意識が芽生える。

大曲工業高校でも学校運営協議会を来年度に向け準備しているが、ワーキンググループは必ず必要なのかという質問があった。学校運営協議会は審議会ではないので、委員の方々が当事者として協議し主体的に動くものと認識している。様々な意見、アイデアが出ることにより学校の先生方も変わるし、子供たちも地域も変わっていく。今後も意見を出し合い、できることは精査して学校と協力してもらいたい。

最後に鳥海ダムの件だが、矢島高校は学校運営協議会が設置されているので、地域の運営協議会としてどのようにバックアップすればよいのかという考えもあっていいと感じた。ありがとうございました。

(9) 諸連絡

①第3回学校運営協議会の内容について（校長）

今年1年の振り返りアンケートについて

学校評価について

②第3回学校運営協議会の日程について（事務局 教頭）

平成31年2月15日（金）に実施予定 懇親会も予定

(10) 閉会（事務局 教頭）